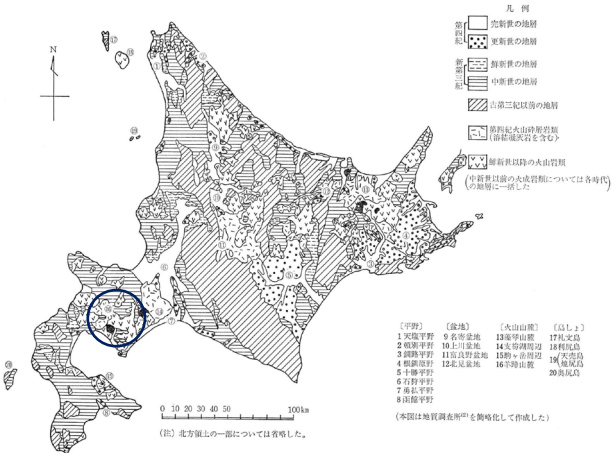
16.羊蹄山麓



地形・地質

羊蹄山は（標高 1893m）渡島半島のつけ根に位置し，半径約 6km の範囲に裾野を広げる円錐形のコニーデ型の火山です。羊蹄山の裾野は，留寿都高原と呼ばれる標高 200～300m の平坦な波状地が洞爺湖方面に広がっています。地質は，本体および側火山噴出物の輝石安山岩の溶岩流と，同質の砕屑物の互層よりなります。

羊蹄山麓の地質層序表

時代		地層名	岩質
第四紀	完新世	現河床堆積物 扇状地および崖錐堆積物	砂，礫，粘土 火山灰，火山岩塊
		羊蹄火山 側火山噴出物	輝石安山岩，その他
		羊蹄火山 本体火山噴出物	同　上
	更新世	低位段丘堆積物	砂，礫，粘土，砂
		真狩別層	火山灰土，火山砂 火山灰，スコリアなど
		中～高位段丘堆積物	砂，礫，火山灰，粘土
		留寿都層	火山灰，軽石，火山砂
		樋負山熔岩 模範林熔岩？	輝石安山岩など

地下水

羊蹄山麓は，地下水を得るのに困難な地帯ですが，山裾には多くの湧泉に恵まれ，この湧泉が住民の生活に欠かせない水源となっています。

羊蹄山の地質，湧泉分布図

出典　日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

https://jagh.jp/activities/groundwater_database/（日本地下水学会）